



山伏道中の練習



凛々しい姿の少年および成年剣士



豪快な曳きまわしの弓矢八幡祝い船



鳩も本番へ向けて練習



弓矢八幡祝い船、町内の皆様の協力で、諏訪神社での階段おろしの練習。



日中練習、大勢の方が応援に！

**記録写真・映像の提供を、お願いします。**

今回の、くんち奉納の記録として、八幡町として記録映像を保存しておきたいと考えています。皆さんが、撮影された写真・映像で提供できるデータがありましたら、広報担当の中川までお願いします。

# 剣舞について

指導：勝風神刀流剣武術 三代目宗家・三木 勝風 先生

今年の選曲は八幡町の曳き物の名称でもあり、戦・武勇・弓矢の神でもある「弓矢八幡（大菩薩）」に因んでいます。

「扇的」は、源平合戦の舞台でもある屋島の合戦において、海上の小舟に揚げられた扇を源氏の武将・那須の与一が「南無八幡大菩薩」への祈りと共に見事に射抜いたという場面を描いています。

「和歌・もののふの」は、武士が戦場に赴く際は多くの矢の中に1本だけ鏑矢を入れている。武士の信念というものは、たった1本の鏑矢のように一途で純粋なものであり、それゆえにたとえその思いを人に知られることはなくとも、神（八幡宮）には届いているのである…という意味を、くんちに向う八幡町の皆さんの思いは純粋で一つにまとまっている!という部分に重ねています。

## 『扇的』

吟士 筒井崇風・三木仙風・井手早苗

源平合戦の舞台となった屋島の戦いで有名な一場面を詠ったもの。

源義経の家臣であり、また弓の名手で知られる那須与一（なすのよいち）は平家の軍勢より漕ぎ出でた小舟の舳先に揚げられた扇を、武の神である八幡大菩薩への念と共に見事に射抜いたのであった。これにより那須与一の名はその栄誉と共に今の世にも語り継がれているのである。

一矢	南無	馬上	舷頭	源平	見る	
誉れ	八幡	士あり	姫あり	の戦記	べし屋島	扇
は	大菩薩	弓に	扇を	情を	壇ノ浦	的
伝う		命を	的と	引く		
		諸	成し	こと		
千載		く		多し		
の名						

松口 月城

## 『和歌・もののふの』

吟士 筒井崇風・三木仙風・井手早苗

舞台となるのは、まだ時の流れに武士の信念が翻弄されていた南北朝時代。

和歌の意味は、武士が戦場に向う際は多くの矢の中にたった一本だけ鏑矢を持っている。

その矢のごとく武士の心にはたった一つの信念・決心というものがあり、たとえその思いを人に知られることはなくとも神だけは知っている、それほどに武士の忠義は純粋であるというもの。

思	も	思	も	
う	の	う	の	和
心	ふ	心	ふ	歌
は	の	は	の	・
神	の	神	の	もの
そ		そ		の
知	上	知	上	の
る	矢	る	矢	の
らん	の	らん	の	の
	鏑		鏑	
	一		一	
	筋		筋	
	に		に	